



くらしかた・すまいかた まちづくり編 Vol.2

柏の葉キャンパスタウン

エコが笑顔を呼ぶまちづくり

千葉県柏市で進行中の「柏の葉国際キャンパスタウン構想」。

約 500ha もの広大なエリアの中で、公・民・学が協力しながら、新しいまちづくりが行われています。

住人のライフスタイルを「エコ」を意識したものに変えていくには、どうすればいいのか？

今回は柏の葉キャンパスにおけるソフト的な取り組みを中心に、そのヒントを探していきます。

取材・撮影・編集：Earth Planning & Work.inc

取材協力：三井不動産㈱、柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK)、NPO 支援センターちば (まちのクラブ活動事務局)、柏の葉エコクラブ

まちづくりの経緯

2000年～

東京大学が柏の葉キャンパスを整備。当時の責任者（東京大学小宮山学長）の活発な働きかけによって、千葉大学、千葉県、柏市も連動。共同事業として「柏の葉国際キャンパスタウン構想」が立ち上がりました。さらに柏の葉キャンパス駅前の「柏ゴルフ倶楽部」跡地を活用した開発を進める三井不動産グループが加わり、公・民・学が連携した「柏の葉キャンパスシティプロジェクト」が始まりました。

2006年～

まちづくりを市民、行政、NPO、企業、大学が協働して進めていくための場として、柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) が設立されました。柏の葉キャンパスシティプロジェクトの推進母体であり、活動の拠点でもあります。UDCK 自体は任意団体で、法人格を持ちません。事務局は、様々な民間企業や NPO で運営されています。(三井不動産が施設維持費、事務局運営費などをサポート)

2008年～

キャンパスシティという地名にちなみ、「学校や会社の放課後に、クラブ活動があったら面白い！」という発想から「まちのクラブ活動」が始まりました。3年で1万人が移り住むこの新しいまちで、まず友達ができる、困った時に頼れるお隣さんができることが大切であるとし、そんな付き合いを通して地域の力を育もうとする試みです。活動のためのクラブハウスもできました。創エネ、省エネ、環境配慮の見える化を柱としたこの施設は、実証実験の場としても機能しています。

また、地域全体で省CO₂削減に取り組むよう、柏市が国の補助を受け、「柏の葉街エコ推進協議会」を設立。ライフスタイル等のソフト的な取り組みも合わせたまちづくりを行うよう、関係者に協力を呼びかけています。三井不動産グループによる新しい集合住宅には、省エネナビが標準仕様として設置される(予定)等、様々な分野や立場の人が協力し合い、地域全体で環境共生のまちづくりが進行中です。

柏の葉キャンパスシティ・ピノキオプロジェクト 2009 (2009年10月11、12日開催)

ピノキオプロジェクトとは、エドアルド・マランジ教授(伊ノフィレンツェ美術アカデミー)提唱による子どもたちがまちづくりや社会活動を学ぶためのアートイベント。ピノキオの衣装をまとい、子どもたち自らが、魅力的なまちを計画し、建設し、市場をたて、地域の人を楽しく迎え入れます。イベントへの参加申込みは当日のみなので、参加したい子どもたちがUDCK前に大集合。ピノキオマルシェは、子どもたちのアイデアによるメニューやサービスが並ぶ他、まちのクラブからの出店もあり、大盛況でした。



まちぐるみでつくる「コミュニティ」

NPO 支援センターちば（まちのクラブ活動事務局） 宮奈 由貴子 さん



まちのクラブ活動のはじまり

編集部：一番初めはどういった形でスタートしたのですか？

宮奈さん：いきなり住民の方に「どうぞ好きなクラブを作ってください。」というのも無理な話なので、事務局が企画してクラブを作り、2008年11月からスタートしました。当初からあったクラブの多くは、柏の葉キャンパスタウンにおける他のプロジェクトと連動しています。例えばククラブハウスを使って養蜂をする「柏の葉はちみつクラブ」は、アート部門のプロジェクトと連動していますし、省エネモニター募集の窓口となっている「柏の葉エコクラブ」や「はじめての土いじりクラブ」も、まちづくりに関するその他のプロジェクトと連動した活動でもあります。

編集部：今はどのくらいのクラブがあるのでしょうか？

宮奈さん：21クラブが立ち上がり、670人ほどが参加しています。一番人気なのは「バンビクラブ」。0～1歳くらいの赤ちゃん、そのママパパが集まってヨガや離乳食レシピの持ち寄り、試食会などをしながら交流を深めるクラブです。その他にも色々ありますが、柏市が国体の会場となる「ペタンク」も、お年寄りから赤ちゃん連れの方までできる簡単な競技なので、人気の高いクラブです。コートは三井不動産レジデンシャル(株)が所有している駐車場の一角をお借りして作りました。

編集部：新しい住民の参加率の方が高いのでしょうか？

宮奈さん：そうですね。クラブハウスに近いことも理由のひとつですが、特に参加条件はありません。どなたでも参加でき、複数のクラブに参加することができます。

住民が主体となっていくために

宮奈さん：まちのクラブ活動の交流イベントとして、柏の葉キャンパス一番街（マンション）とららぽーと柏の葉に協力をお願いして、子どもたちがいろんなお家をめぐってお菓子をもらうというハロウィンイベントを昨年秋に行いました。まずマンションの住民から協力世帯を募集し、入口から部屋まで子どもたちがお菓子をもらいに行ける環境を整えたり、ららぽーと柏の葉、出店者の皆さんにご協力をお願いしたり、ハロウィンパーティーの準備をしたりと大変でしたが、100人以上の子どもたちが集まり、大盛況に終わりました。

編集部：まさに「まちぐるみ」の取り組みですね。

宮奈さん：そうですね。大盛況でしたが、来年に向けての反省点としては、準備段階から住民の方にも参加してもらう仕組みにすること、です。まちぐるみで行うイベントに、住民が準備段階から関わることで、そのノウハウや経験が蓄積されて、事務局主体ではない住民主体の活動になっていくと感じました。クラブ活動も初めは事務局が主体となって進めていましたが、参加されている人たちがそれぞれのグループで考え、活動していくような転換期に来ています。事務局がクラブ活動全体を統括して、大きな組織として動くのではなく、活動するクラブごと、その中にグループがあればグループごとの小さな組織を持ち、自分たちの「あったらいいな」を実現できるようになることが、実は経済的な自立、持続可能な活動という意味も含めて、今後のクラブ活動における課題になってくるのではないかと思います。

エコクラブの活動を通して、笑顔の多いまちに

柏の葉エコクラブ部長 國田 かおる さん



省エネモニターとエコクラブ

編集部：エコクラブは、何人くらいで活動してるのでしょうか？

國田さん：2008年秋のスタート当初は40世帯くらいでしたが、今は180世帯くらいに増えました。

編集部：エコにまつわる、どんな活動をされているのですか？

國田さん：省エネナビの貸出を行っているので、最初はその使い方やデータの読み方講習会から始まりました。今では他に、家電やエコグッズ、エコクッキングなど、興味の対象別にグループができ、それぞれ自主的に集まって活動しています。

編集部：省エネナビは、メンバー全員に配布しているのですか？

國田さん：100台あるので、希望者にお貸ししています。メンバーの3分の1（60世帯）くらいが付けています。省エネセンターからの貸出計器の他に、東京大学の先生が主体となって進めている家電の電気使用量をモニターする実証実験が始まるので、エコクラブの参加世帯に募集をかけたら、50世帯分がすぐに決まりました。みなさん「自分たちがどのくらいエネルギーを使っているのか」ということに高い関心を持っています。編集部：家電製品のモニターは、シャワー時間などプライベートがわかってしまって、嫌がる場合が多いと聞きますが。

國田さん：モニターの匿名性を確保していることと、設置された方からは「自分の立ち位置がわかるのが面白い」とか、「同じマンションで似たような家族構成で、何でうちはこんなに電気代がかかるのか。」とか、「電気代が高いことすら知らなかった。」といった意見をいただいています。他のお宅の電気代なんて改めて聞きませんものね。例えばそういった事実を知ることだけでも、「我が家でもできるんじゃないか」と、省エネに対する意識が変わってくるようです。

プライスレスな物々交換「X-ing（クロッシング）」

國田さん：その他に、実験として2009年6月から1ヶ月間、物々交換「エコモノ交差点」というものをやりました。英語で交差点のことを「X-ing（クロッシング）」と言います。まちにいる人にはいろいろな才能とか可能性がある。Xをingにしてみましたか？とメンバーに呼びかけたんです。持ってきていただいた物には、1つ1つに「思い出タグ」というものを付けました。そこに「子供がすごく大好きだったんですけど、さすがに高校生になったので使えなくなった。」とか「デザインが気に入って買ったんですが、合わなかったお洋服なのですけど着て

ください。」というようなメッセージを書いてもらいました。

編集部：欲しいと思った人はどうすればいいんですか？

國田さん：「ありがとうございます。大切にに使わせてもらいます」と書いたタグを、持ち主に宛てて置いていくんです。

編集部：なるほど。品物を出した人に別の「モノ」が渡される「物々交換」ではないんですね。

國田さん：はい。残すメッセージは無記名でもいいんですが、自分が出した品物がどこに渡っていったのか見えるようにしました。不要品ではあるけれど自分にとっては大事な物が、自分の手元を離れても、このまちに住んでる誰かのところで役に立っている。物に宿る思い出を共有して、また新しい思い出を作りたい。そんな意図で始めた「まちの中で物を共有する」試みでしたが、結果として質の良い物が多く出回りました。

編集部：金品の交換によるリサイクル活動が当たり前の中で、とても意味のある活動なのではないでしょうか。

國田さん：なるべく「プライスレス」にしたかったんです。物の価値というのは、人によって違って、値段をつけてしまうと、とたんにチープなものになってしまう。持ち主にとっては大事な物なので、それでは結局出たくなくなる。そこで金銭的な価値をつけない、物々交換を実験的に行ったんです。良い例が、お嬢さんのピアノの発表会用に買ったドレスを「もう子どもも大きくなって着れないし、家に置いても場所を取るし、ネットオークションで知らない人に千円で売るのも嫌だし。」と思って出された方に、「ウチの子がちょうどピアノの発表会なので着てもいいですか？」というメッセージが残されていたんですね。喜んでそれをもたらしてください。そのことにさらされた方が満足感を感じられれば、それは「金額にすればいくら」ということで得られるものと、全く価値が違うと思うんです。

エコが「笑顔を呼ぶ」ように

國田さん：エコというと、「我慢、努力、お金がかかる」というイメージがあると思うんです。でも、ちょっとした工夫をすることで変えられるということも、もっといろんな人に知っていただきたいですね。柏の葉では「エコ」を「笑顔を呼ぶ」と書いて「笑呼（エコ）」と呼んでいます。クラブの活動を通して、人と人が交流する場所があること、そこでエコライフを楽しんでいる人がいることを知ってもらいながら、皆が楽しいと思えるようなまちにしたいなと思っています。



家でも会社でも学校でもない、もうひとつのコミュニティ

まちのクラブ活動・5つの心得
～まちのクラブ活動の楽しみ方～

1. クラブは、本気であそぶ場である。あなたの“あったらいいな”を実現しよう。
2. クラブは誰にでも開かれている。家族で楽しむもよし、ママ友達で立ち上げるもよし。
3. クラブの名刺を持って街にでよう。“〇〇ちゃんのお母さん”でも、“二丁目の〇〇さん”でもない、自分を表す活動を持とう。
4. 案ずるなかれ！あなたの“あったらいいな”は、まちにとっても、大きな財産だから。
5. クラブでまちをつなげよう。まちのクラブ活動は、みんなの“コミュニケーション装置”だから。

まちのクラブ活動「5つの心得」。クラブ活動を通して、まちに自分の居場所を作ることが目的としながら、その交流から、住民力を育むための取り組みでもあることが伺える。

戸建て既存住宅でエコライフを楽しむ

柏の葉エコクラブメンバー Oさん

普通の家に、 太陽光発電システムを搭載した理由

編集部：太陽光発電システムを購入することになったきっかけを教えてください。

Oさん：家を買った当時はエコなんて特に意識しないで、旦那の通勤に便利な場所だという理由で、この建売住宅を購入しました。それから10年ぐらい経ち、温暖化とかいろんなニュースを見るうちに、「太陽光を取り入れられたらいいよね。」と、夫婦で話すことが増えて。そしてある日入ってきたチラシを見て、「安いよ」と私が言ったら、旦那は「じゃあ買おう」と。「えー？」と思いましたが、「お金を出す人が買おうと言った方がいいか。」と、そんな感じで付けることになりました。



編集部：宣伝元の会社は、どんな会社でしたか？

Oさん：大手家電量販店の子会社で、モニターを募集していました。定期的にデータを送るのが条件とありました。それが2009年1月のことです。アンケートが送られてくるので、太陽光発電のモニターを確認して、毎月のデータを記入して送り返しています。

編集部：発電した電力は、家の中のどこに使っていますか？

Oさん：コンセントと照明はもちろん、家の中の全部の家電製品に使えます。電力会社から買う電気と同じように使って、余った分は売っています。この近所に売られているらしいです。

編集部：ちなみに費用はどのくらいかかりましたか？

Oさん：エコキュートとIHクッキングヒーターと太陽光発電システムを全部まとめたセットで購入したので、総額は忘れましたが、月2万円くらいの返済をしています。

編集部：設置してからは問題も無く。

Oさん：はい問題も無く。使い方に問題はありましたけど。

省エネ機器は、使い方で効果が違う

編集部：使い方の問題とは、どんな事だったのでしょうか？

Oさん：機器を設置したのは冬だったんですが、自給率がすごく低くて。なんでだろうと原因を探そううちに、エコキュートの設定が問題なんじゃないかと疑うようになりました。最初オスメモードにしていたらすごく電気がかかっていて、全然エコじゃないじゃないんですよ。一番電力を使わないように、夜間電力だけ使ってお湯を沸かして、それが無くなったら無くなったでいいぐらいの設定にしたら、やっと自給率が上がってきました。エコキュートは、足りなくなったら勝手に沸き増してくれたり、溜める量だったり、家族が多ければ多めにお湯を作っておくといった設定を自分で決められます。冬はエアコンを使ってないので、その設定を変えたせいで自給率が上がったと思うんですよ。新聞にも載ってたんですけど、買ったからすぐ節約になるだろうと思



うのは、間違いですね。これからエコキュートにされる方は、オスメモードにしないでください。と言いたいです。我が家の場合、途中で足りなくなっちゃったことがあるんですね。

編集部：足りないってどういうことですか？

Oさん：お湯が出なくなるんです。それで一番お湯を使うお風呂の水位設定を低くして、ようやく足りるようになりました。それと最初は5時間とかに設定されていた自動保温を止めました。暖め直しだと、浴槽の中の温度の低いお湯とエコキュートの中の暖かいお湯を交換させるのに、すごくエネルギーを使うらしいです。60度のお湯が出るので、それを浴槽に送り込む「さし湯運転」に変えました。それが一番エコなんですって。



エコクラブから貸し出される省エネナビ「エコリンク」家庭内の総電力使用量と2か所のコンセントの消費電力が表示される。(左) 詳細な利用状況はパソコン画面で確認できる。(右)

編集部：これはどこで聞いたんですか？

Oさん：よく読めば取扱説明書に載っているんです。「何かが違う」と思ったあと、よく読みました。お客様相談室に電話もしました。お風呂の設定温度とかも夏とか冬とか季節によって変えるだけでも消費電力が相当違います。私も自分でやってみて、こんなに自給率が変わるんだと実感しました。自給率は15%も上がりました。

エコクラブと日々の暮らし

編集部：太陽光発電システムを購入したきっかけは、エコクラブの活動だったのでしょうか？

Oさん：そうではないですね。太陽光発電はエコクラブ活動に関わる前に購入しました。元々はピノキオとか、柏キャンパス駅前にあるUDCKでやってる催しに首をつっこんでいたんです。エコクラブがあるのは知っていたんですが、1度も行っていないのに、メーリングリストに入っていて。ある日、気になる情報があったので、1回ぐらいと思って行って、それで正式に入部しました。

編集部：気になる情報って何だったんですか？

Oさん：「重曹とクエン酸でするエコクリーニング」講座があったので、行ってみました。今はエコクラブの中にいろんな人がいるので、お互いに教えあえるんですけど、この時は外から講師を呼んでたんですね。

編集部：クラブ活動で学んだことを、家で実践していますか？

Oさん：エコクラブでは、省エネナビの使い方講座や、エコ検定勉強会をやったこともあります。クラブハウスの中にキッチン会議室があるので、普通の料理だけでなく、ふだん捨てる部分を使うエコクッキングをしています。我が家で実践しているのは、エコクッキングとエコナビですかね。他のエコ的なことは、家庭菜園のために電気コンポストを買ってみたり、実のなる木を植えたり、実はエコクラブに入る前からやっていることが多いんです。



O家の 笑呼ライフ事情

1. 自称「エコマイスター」なOさん。自家用車だって、もちろん「エコカー」
2. 庭には実のなる木を植え、果箱をかけている。
3. 照明やエアコンのスイッチはあまり入れないというOさん。「私のエコの目的は「家計の節約」です。(笑)」。目的が明確な方が行動も長続きする。
4. ご主人が庭で行う家庭菜園用に購入した電気コンポスト。しかしOさんによると「炭化してあまり質が良くなかったので、今は生ゴミを直接庭に埋めています。家族には不評なんですけどね。」とのこと。
5. 理由は畑作業をする時に卵の殻などが出てくるから。「家庭菜園用に肥料を買ったりすると、できた野菜を買ってきた方が安いんじゃないか。とも思うんですけどね。」さすが主婦らしい現実的な視点。ご主人の趣味を兼ねていることもあり、家庭菜園は継続中である。

新築マンションでエコライフを楽しむ

柏の葉エコクラブメンバー Hさん

奥行き3mのベランダとクーラーいらずな夏

編集部：ここ（柏の葉キャンパス一番街）に住み始めたきっかけを教えてください。

Hさん：私がたまたまこの近所に勤めていて、以前は千葉市から通っていました。通勤の際に柏の葉キャンパス駅の近くにあるモデルルームをなんとなく見に行ったら、これだ！と思い、即決しました。2008年10月から住み始めました。

編集部：モデルルームを見て気に入ったのは、どういったところだったのでしょうか？

Hさん：家の間取りとか、造りとかですね。冷房が嫌いなので、夏はとにかく冷房を付けなくて済むような家に住もうと、ずっと思っていたんです。

編集部：モデルルームには、「冷房がいらぬ家です」等の案内があったのでしょうか？

Hさん：それはなかったんですけど、まずベランダが3mもあるのがすごいと思って。今まで住んでいた家はもっとベランダが狭くて、そこから部屋の中に熱が伝わってきて、夏は本当に暑かったんです。それから間取りを見るとあっちこっち窓が開いていて、部屋の中に風が通ることがモデルルームでも分かったんです。それで「もうこれ！」という感じで決めました。

編集部：風はどこから抜けるようになっているのでしょうか？

Hさん：リビング・ダイニングと寝室、どちらの部屋にも通風用の小窓が付いています。前の家は誰でも入れるような造りで、あまり開けておけなかったんですね。でも今の家は、セキュリティもしっかりしているので、就寝時でも安心して小窓を開けておけるし、風が家全体を抜けていくような間取りになっているので、期待どおりに涼しくて、とても満足しています。

編集部：実際に、冷房は全然使わなくなったのでしょうか？

Hさん：使わなくなりました。それが凄く気に入っています。やっぱりベランダが3メートルって、効果が大きいんです。それにバジルとかロケットとかシソとかハーブを作って食べているので、これだけあれば他にもいろいろ出来るかなと思います。

編集部：例えば夏、日中に出かけていて、夜に帰ってきた時、部屋の中が暑かったりしないのでしょうか？



Hさん：ならないですね。防犯がしっかりしているので、日中出かける時も、通風用の小窓だけは開けていけるので、室内に熱がこもることはないです。それに犬を飼っているんで、冷房をかけて出るのはしたくないんですよ。

自分で気づいて始めるエコ

編集部：以前と光熱費を比べて、何か変化はありましたか？

Hさん：電気代だけみれば、夏は圧倒的に安くなってます。冬も安くなっています。ただ床暖房を使ってガス代は高くなりました。でも今までの半分ぐらいの広さの家で、料金が一緒ぐらいということは、安くなっていますね。夏はそれでも前より安いんですよ。夏のガス代は前と同じぐらいで、冬は電気代が安くて。トータルを考えると一緒ぐらいです。

編集部：ガスの床暖房は全室についているのでしょうか？

Hさん：リビングとダイニングだけです。半分ずつ出来るので、居るほうにつけます。20分ぐらいで暖かくなってきて、部屋全体が暖かくなります。止めても暖かさが持続するし、この部屋以外はエアコンなんですけれども、ほとんど使わなかったです。脱衣所も台所からつながっているんで、間にある扉を全部開けておくと家中暖かいんです。新しい住宅はみんなそうなんですけど、体が楽になりました。

編集部：住んでみて気付いたことは、他にありますか？

Hさん：エアコンじゃなくて、照明のせいで電気代がすごく高くなっていたのに驚きました。入ったのが10月だったので、まだ暖房もつけないし、冷房もつけない時期だったのに、1万8千円。夏、冷房を使っている月と同じぐらいかかりました。

編集部：何にそんなにかかっていたのでしょうか？

Hさん：玄関とか廊下とか、大きいクローゼットや洗面所、台所など、家中に100ワットの白熱灯が一杯付いていて、玄関だけでも4つ付いているんですよ。明るくて良いんですけども、驚くほど電気代が高かったんです。広がったからしょうがないんですけども、「えっ？」と言うぐらい高くて。その後、玄関とかクローゼットとか白熱灯のものを全てLEDの電球にしたら、途端に電気代が安くなりました。

1. 3mもあるベランダは、夏に深い軒の役割をし、室内に熱を伝えない。もちろん窓もエコガラス。2. 寝室は廊下に面しているが、同階の住人しか降りることができないことと、窓全体と小窓を分けて開閉できる格子窓が付いているため、安心して夜も開けて寝ることができる。「内側からロックできるので、夜は開けて寝ているお宅が多いようです。」とHさん。3. 白熱灯をエコ電球に変えた玄関とクローゼットの天井照明。照明にかかる電気代も、家庭における重要な省エネポイントである。4. 広いベランダを利用して、ハーブや果実を育てているHさん。水場も用意されているので、水やりにも困らない。

編集部：電球を換えただけで、すごい効果ですね。

Hさん：他にも住んでから気づいて、自分で変えたことがあります。トイレの洗浄設定なんですけど、最初は立つと流れるという自動設定になっていました。洗浄する際の水量って、いっぱい流れるのとそうでないのがあるのに、自動だと常にいっぱいの方で流れちゃう。それを設定し直して、立っても自動的に水が流れないようにしたんです。使う人が自分で選べるようにして、水道料金もだいぶ安くなりましたね。メーカーのオススメモードって、あんまりエコじゃないと思いました。

エコクラブに期待すること

編集部：これから始まるモニター体験を通して、一番知りたいのはどういうところですか？

Hさん：我が家がどれだけ電気を使っているか、ですね。ちょっと暖かい日が続いたら少ないとか、頻繁に見られるみたいようなので、楽しみにしています。

編集部：目に見えて使っている量が分かるといいですよ。

Hさん：そうそう、目に見えるっていいですよ。例えば請求書って1ヶ月後に来るので、あんまり現実味が無いというか、過ぎちゃったことだしみたいな感じで。後は生活に役に立つ情報というわけではないんですけど、興味として、上のお宅は温度が高いのかなとか知りたいですね。

編集部：エコクラブの活動を通して、同じマンション内でお友達になることはあるんですか？

Hさん：ありますね。省エネモニターの見方なども、勉強したエコクラブの人が教えてくれるらしいです。

編集部：今後、エコクラブでやって欲しいこととかありますか？
Hさん：いらぬだけ人あげたら迷惑かなというものを簡単に交換できたり、そういうものをエコクラブでやってくれたらと思います。

編集部：前にやっていたと聞きました。

Hさん：そうですか！いいですね。またやってください、って要望を出しておきます。

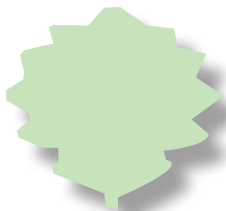


H家の笑呼ライフ事情



柏の葉キャンパスタウンにおける環境共生の取組み

市民のライフスタイルを環境共生型に



柏の葉国際キャンパスタウン構想

公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市

理念「柏の葉国際キャンパスタウンを形成するために、公・民・学が連携し、キャンパスとまちが融和した創造的環境の中で、最先端の知・産業・文化が育まれる国際学術研究都市、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される次世代環境都市を実現する。」

この構想は、日本における人口減少や少子高齢化、環境・健康・防犯・経済活力等の様々な問題の顕在化に加え、ライフスタイルの多様化による街の住人、利用者の需要の移り変わりに対応した新たな都市像を確立すべく、柏の葉地域のまちづくりに関わる公・民・学が連携・具体化する際の大きな指針として、平成20年3月、柏の葉国際キャンパスタウン構想検討委員会（千葉県+柏市+千葉大学+東京大学）によって策定された。

構想の中では、さらに8つの目標と26の方針が定められており、1番目の目標として、「環境と共生する田園都市づくり」が掲げられている。（下記参照）

環境共生型ライフスタイルへの転換

目標1の方針には、「市民生活を環境共生型に改める」ことが示されている。住民のライフスタイルを環境共生型へと変えていくために一番重要なのは、日々の生活の中での、自らによる気づきである。地球温暖化のニュースやまちのクラブ・エコクラブの活動、省エネナビ等の様々な「装置」を通して、「自分でもやってみようかな」という行動を起こす「きっかけ」を与



柏の葉キャンパス駅前周辺の開発の様子（俯瞰写真は、柏市HPより）。商業施設、大学や病院、住宅地が近接し、周囲には公園や緑地、農地なども多く残っている。

える。その行動の成果に「満足」できれば、他の人にも勧めたくなり、まちの中に行動を起こすきっかけがさら増えていく。行動は簡単なこと、普段行っていることからで、むしろ良い。暮らすことに長けた人が、まちの中での「先生」になって、「環境共生型ライフスタイル」が広がっていくことが、実は理想の形のように思う。人と物だけではなく、人と人が交流することで生まれる「環境共生のまちづくり」。柏の葉キャンパスタウンで、現在進行中である。（編集部）

●目標 1. 環境と共生する田園都市づくり

～脱炭素社会モデルとなる緑地保全や持続型開発による『環境空間』と市民や企業の『環境行動』を誘発する～

方針 1. 『緑地ネットワーク』を保持し強化する 緑被率 40%を維持

地域で育まれてきた豊かな自然環境を継承した環境共生型の都市を実現するため、地域を取り囲む水系をつなぎとめ、生態環境の軸を保全、創出する。さらに地形や緑、農地などを重要な資源として保全し、それらをつなぐ緑のネットワークを形成、強化する。

方針 2. 持続性の高い開発や建築の『柏モデル』を普及する 街区の緑被率 25%、CO₂削減 35%を達成
環境問題がグローバル化しつつある中で、最先端の環境技術を取り入れた環境負荷の小さな開発や建築により、従来型開発と比較してCO₂の35%削減した脱炭素社会モデルとなる、持続性の高い環境共生型都市形成を『柏モデル』として普及し、環境空間を形成する。

方針 3. 市民生活を環境共生型に改める

環境都市の実現のために、市民のライフスタイルにおける意識付けから、身近な取り組みや地域の環境保全活動の充実が求められる。市民や企業の環境行動を普及・促進し、活動を支援することにより、市民に永く愛され、誇れる田園都市を実現する。

柏の葉国際キャンパスタウン構想 [概要版] (平成20年3月) より